

さんたろう

登録番号：第 11257 号

登録年月日：平成 15 年 3 月 26 日

登録者：(独)農業・食品産業技術総合研究機構（茨城県つくば市観音台三丁目 1 番地 1）

育成者：吉田義雄 土屋七郎 羽生田忠 敬 真田哲朗 櫻村芳記 増田

哲男 別所英男 小森貞男 伊藤祐司 副島淳一 阿部和幸 古藤田信博 加藤秀憲

来歴：「はつあき」と「スターキングデリシャス」の交雑実生

育成地：岩手県盛岡市（(独)農研機構果樹研究所リンゴ研究拠点）

特性

■栽培特性

樹姿は開張、樹の大きさは中、樹勢は強である。短果枝の着生は中程度で、腋花芽の着生は多い。満開日は育成地では「ふじ」よりも 1 日程度遅い。S 遺伝子型は $S_3S_3S_{23}$ 型であり、「世界一」、「陽光」、「スターキングデリシャス」などと交雑不適合性であるが、その他の主要経済品種とは適合性である。本品種は三倍体であるために、花粉の稔性が低く、受粉樹として利用できない。また、収穫前落果がやや多いが、豊産性であるため、多収が期待できる。育成地における成熟期は 9 月下旬～10 月上旬で、「千秋」より 1 週間ほど早く、「紅玉」より 2 週間ほど早い。総合的な栽培性は優良である。

■果実特性

果実は円形で 350～400g 程度と大きい。果皮は鮮やかな濃赤色で、こうあ部にわずかにさびが見られる場合もあるが、外観は極めて美しい。果汁は多いが、糖度が 12.5～13% とやや低く、リンゴ酸含量は約 0.7% と、酸味が強い。心かびの発生はほとんどない。可食期間は室温では 10 日前後、冷蔵では 30 日前後である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

主要病害では斑点落葉病に対して抵抗性、黒星病に対しては罹病性である。その他の病害に対しては、特に問題となるものは認められていない。

樹勢が旺盛であるため、間引き剪定を主体として、樹勢を落ち着かせるようにつとめる。また、仕上げ摘果では 4～5 頂芽に 1 果の割合とし、300～400g 程度の中玉生産を心がける。また、日陰の果実は着色が劣るので、枝の配置に注意して樹形を整える必要がある。収穫前落果については、基準にしたがって落果防止剤を散布することにより防止できる。収穫にあたっては、未熟果は酸味を強く感じるために、着色の進んだ果実から 2～3 回に分けて選り収穫を行い、適熟果の収穫につとめる。収穫適期は地色の緑が抜けてやや黄色みを帯びた時期である。

■地域適応性

本品種の果実の着色は優れているが、暖地ではやや着色が劣る。このため栽培適地は東北地方以北であると考えられる。やや酸味が強いことから、生食用として扱う際には、「紅玉」のような強い酸味を好む消費者へアピールするような手段を取ることが望ましい。また、ジュース・ジャムなどの加工原料としても優れるが、「紅玉」と比較して煮くずれしやすいという特性を有している。

(森谷茂樹)